

公共交通に関する各種調査の概要

①住民アンケート調査	1
②高校生アンケート調査	15
③バス利用者アンケート調査	22
④各種団体アンケート調査	29
⑤まち・ひと・しごと創生に関する 市民意識調査（企画財政課実施調査）	38
⑥市バス乗込み調査	42

平成28年12月7日
嘉麻市 庁舎・交通体系対策室

①住民アンケート調査結果の概要

1. 調査実施概要

■調査目的

- 市民の日常生活における交通手段、公共交通利用目的や公共交通に対する意見や要望等の把握、分析

■調査期間:平成25年10月上旬～10月中旬

■調査対象:

- 18歳以上の市民から6,000人を無作為抽出
- 地区別の配布数は人口分布(各地区への平等な意見収集)、利用頻度が高いと思われる65歳以上の高齢者への確実な配布を考慮し、設定

■配布・回収方法:郵送により配布・回収

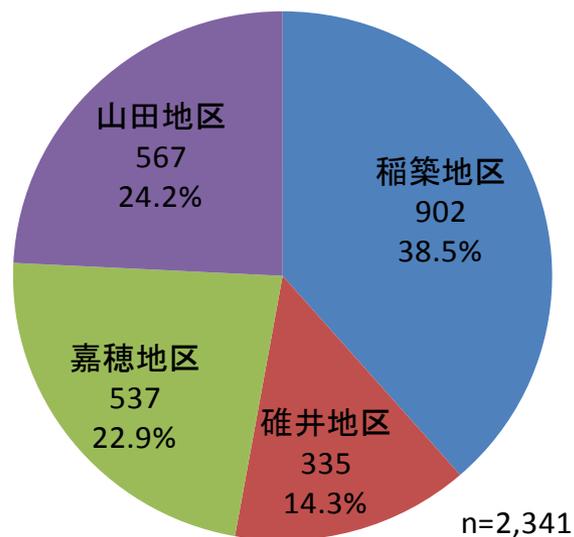
■配布数・回収数

- 配布数6,000票、回収数2,404票(有効票のみ)

■回収率:40.1%

回答者の居住地は

- 「稲築地区」38.5%(902人)
- 「山田地区」24.2%(567人)
- 「嘉穂地区」22.9%(537人)
- 「碓井地区」14.3%(335人)

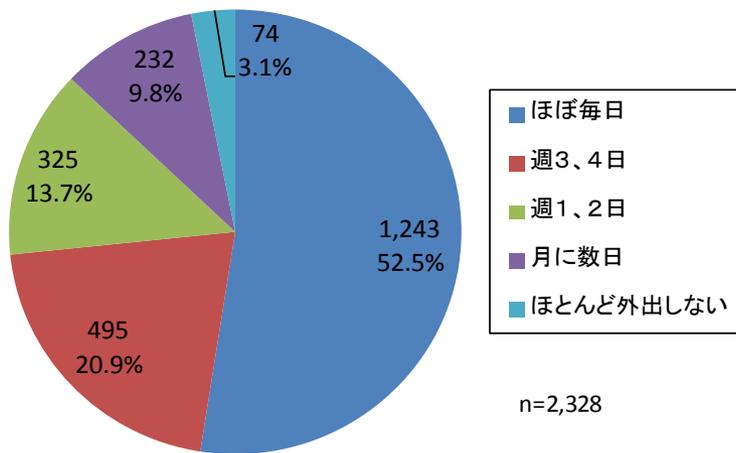


総回収数に占める各地区の回収数と割合

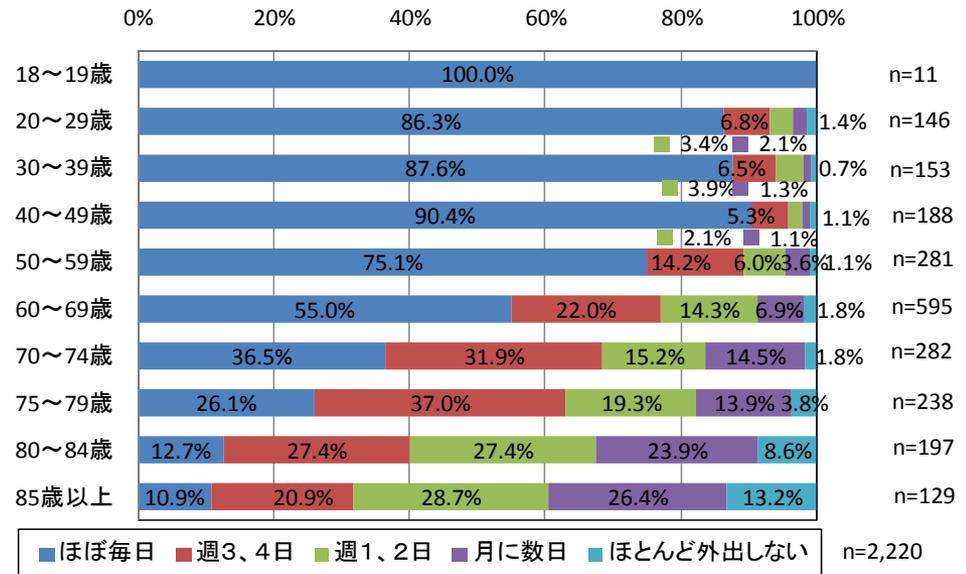
①住民アンケート調査結果の概要

2. 外出頻度－1

- 1位「ほぼ毎日」外出する人52.5%(1,243人)
- 2位「週3、4日」が20.6%(495人)
- 3位「週1、2日」が13.7%(325人)
- 年齢別では、高齢になるにつれ「病院」が増加、20～59歳は「職場」が最も多い



外出頻度



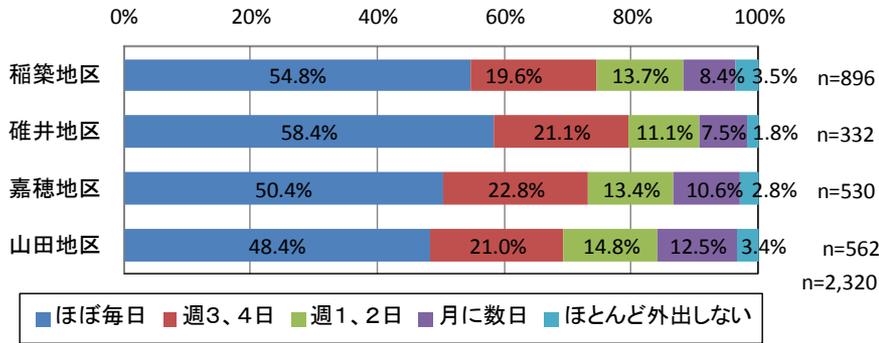
外出頻度(年齢別)

①住民アンケート調査結果の概要

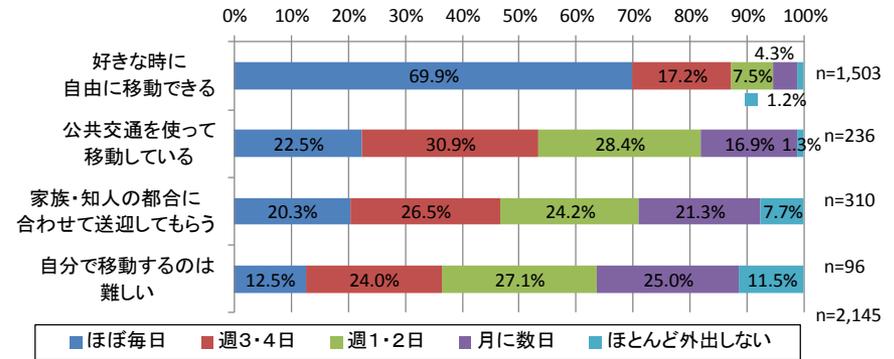
2. 外出頻度－2

- 地区別では、各地区において「ほぼ毎日」外出する人が最も多く5割程度
- 「好きな時に自由に移動できる」人は「ほぼ毎日」が最も多く69.9%
- 「自分で移動するのは難しい」人は「ほぼ毎日」が12.5%

移動制約で、
外出頻度が
大きく異なる



外出頻度(地区別)

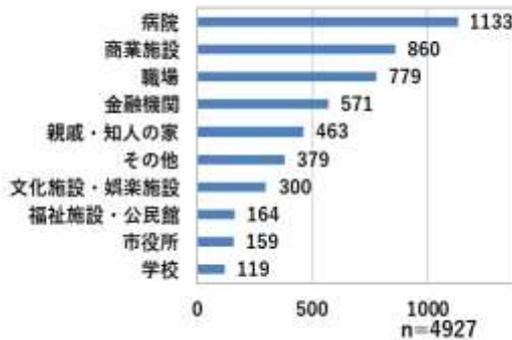


外出頻度－移動制約

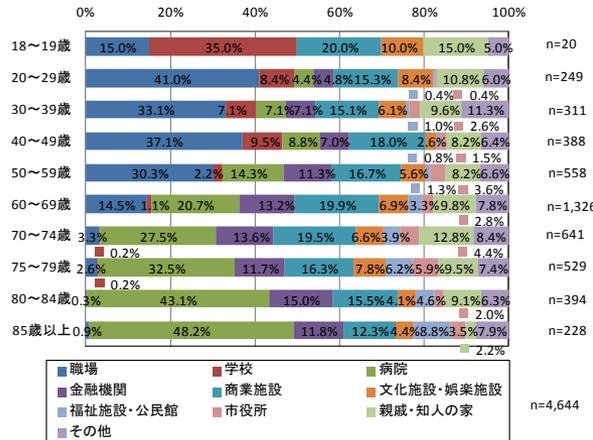
①住民アンケート調査結果の概要

3. 外出の目的地

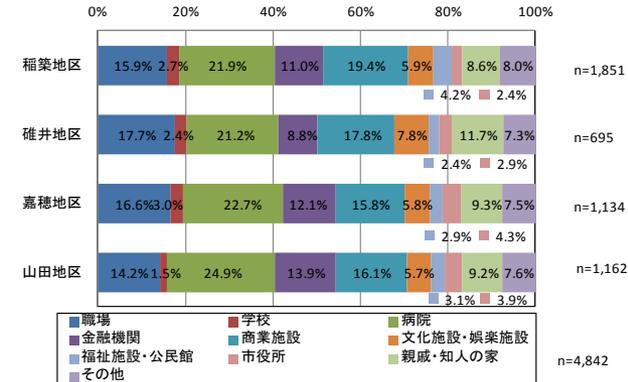
- 1位「病院」1,133人
- 2位「商業施設」860人
- 3位「職場」が779人
- 年齢別では、高齢になるにつれ「病院」が増加
- 20～59歳は「職場」が最も多い
- 地区別では、どの地区でも同じ傾向がみられ、「病院」が最も多く2割程度を占めている



外出の目的地



外出の目的地(年齢別)

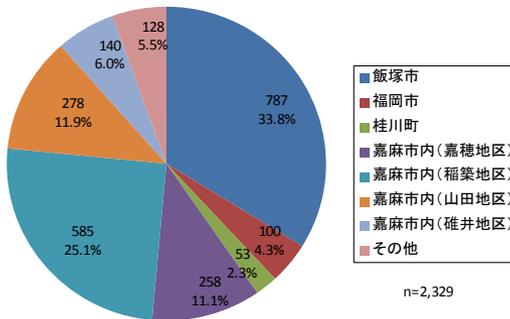


外出の目的地(地区別)

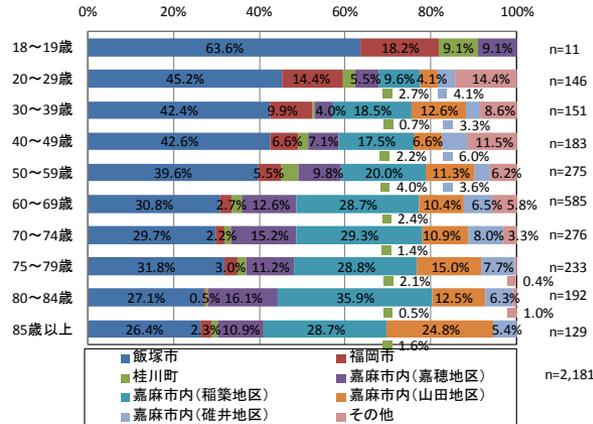
①住民アンケート調査結果の概要

4. 外出の行先

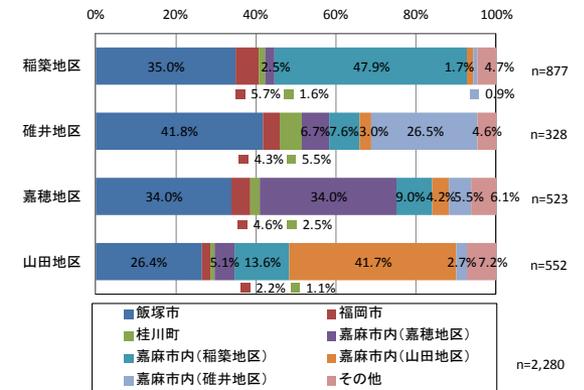
- 1位「飯塚市」33.8% (787人)
- 2位「嘉麻市内(稲築地区)」25.1%(585人)
- 3位:「嘉麻市内(山田地区)」が11.9%(278人)
- 年齢別では、高齢になるにつれ「飯塚市」へ外出する割合が減少。80歳以上は「嘉麻市内(稲築地区)」が「飯塚市」を上回る
- 地区別では、稲築地区と山田地区は、「同地区」への外出が最も多く4割程度
- 嘉穂地区は、「同地区」と「飯塚市」が同じ割合で34.0%
- 碓井地区は、「飯塚市」が最も多く41.8%



外出の行き先



外出の行き先(年齢別)

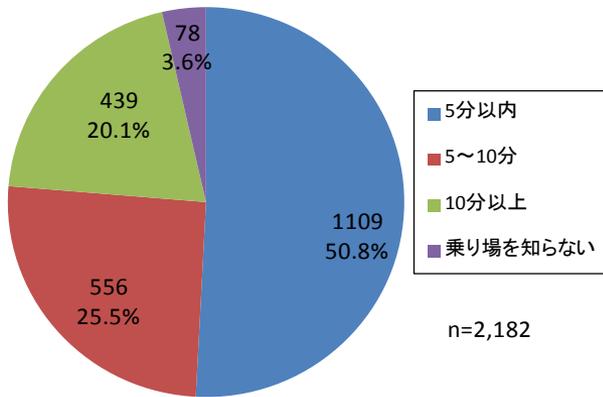


外出の行き先(地区別)

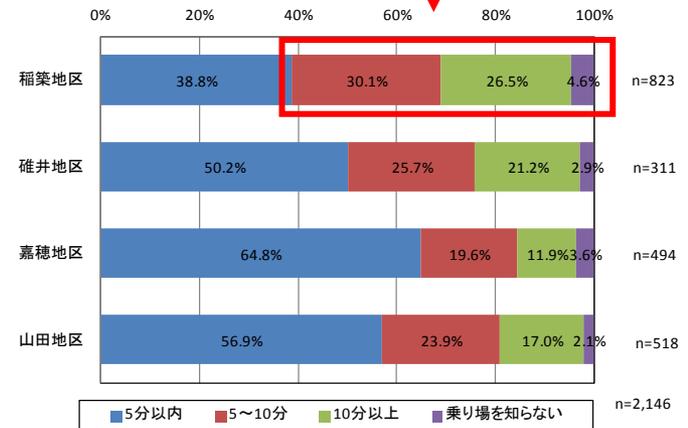
①住民アンケート調査結果の概要

5. 最寄りの公共交通の乗り場までの時間距離

- 1位「5分以内」50.8% (1109人)
- 2位「5～10分」が25.5% (556人)
- 3位「10分以上」20.1% (439人)
- 地区別では、「稲築地区」居住者が、バス乗り場が最も遠い
- 「乗り場を知らない」回答は、地区による偏りは見られない



最寄りの公共交通の乗り場への時間距離



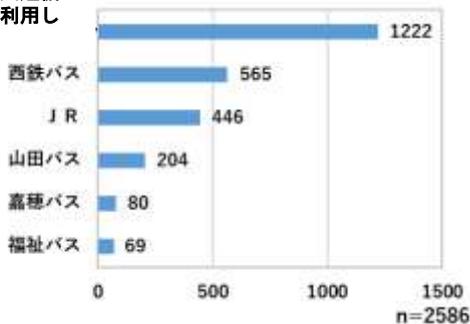
最寄りの公共交通の乗り場への時間距離(地区別)

①住民アンケート調査結果の概要

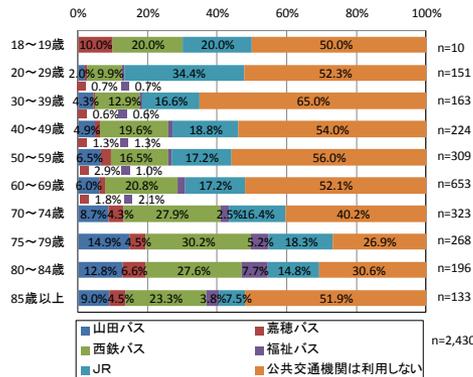
6. 利用する公共機関

- 1位「公共交通機関は利用しない」1,222人
- 2位「西鉄バス」565人
- 3位「JR」446人
- 嘉麻市バス、福祉バスは合わせて353人が利用
- 年齢別では、「18～69歳、85歳以上」は「公共交通機関は利用しない」が最も多く5割以上
- 「70～84歳」は公共交通機関を利用する割合が高い
- 地区別では、「稲築地区」は他地区と比較して「西鉄バス」の割合が高く26.9%
- 「嘉穂地区」は「嘉穂バス」の割合が高く10.1%
- 「山田地区」は「山田バス」の割合が高く21.3%

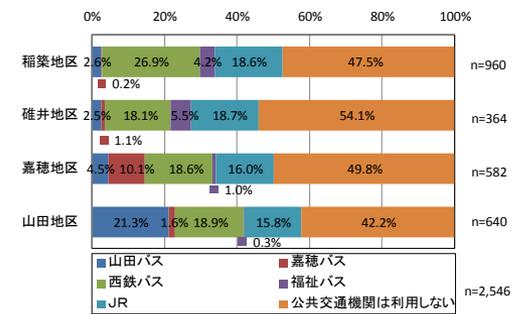
公共交通機関は利用しない



外出の行き先



外出の行き先(年齢別)

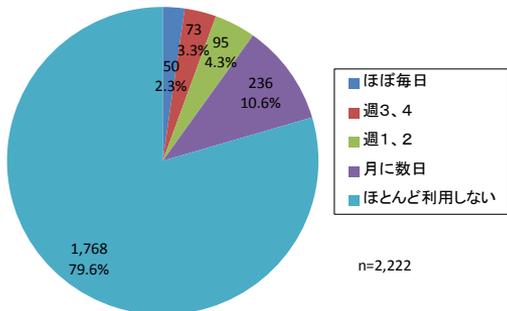


外出の行き先(地区別)

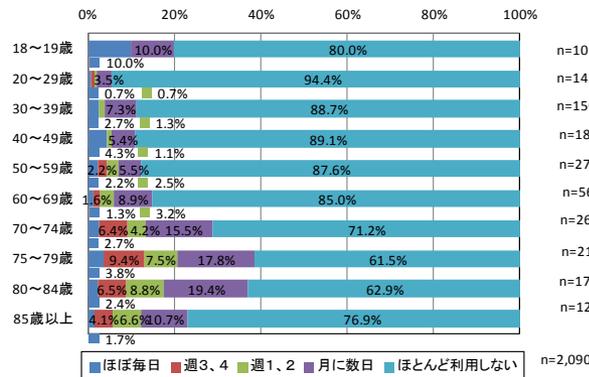
①住民アンケート調査結果の概要

7. バス(山田バス、嘉穂バス、福祉バス、西鉄バス)の利用頻度

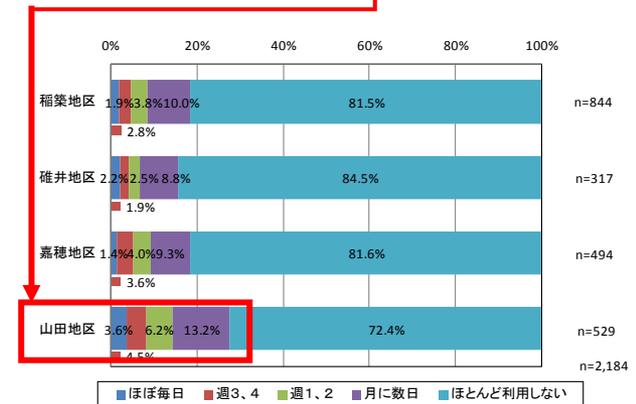
- 1位「ほとんど利用しない」79.6%(1,768人)
- 2位「月に数日」10.6%(236人)
- 3位「ほぼ毎日利用」する人は2.3%(50人)
- 年齢別では、「18～69歳」は「ほとんど利用しない」が8割以上、「70～84歳」は「月に数日」が他の年代より高く1～2割
- 地区別では、各地区において「ほとんど利用しない」が7割以上を占める
- 免許保有状況が比較的多い「碓井地区」「嘉穂地区」は、バス利用者が他地区より少ない
- **免許保有状況が少ない「山田地区」は、バスを利用者が27.5%であり、他地区と比較して多い**



バスの利用頻度



バスの利用頻度 (年齢別)

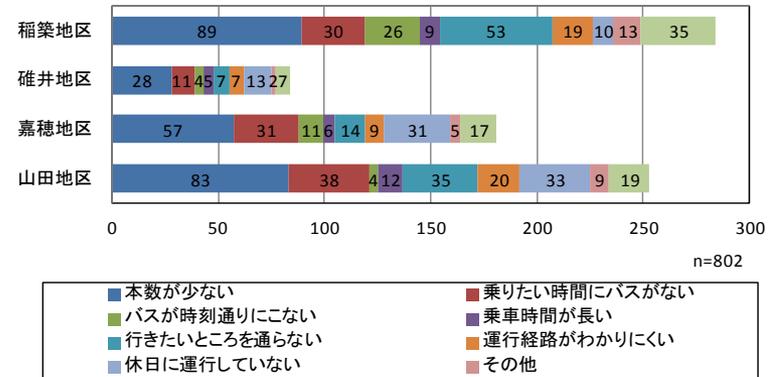
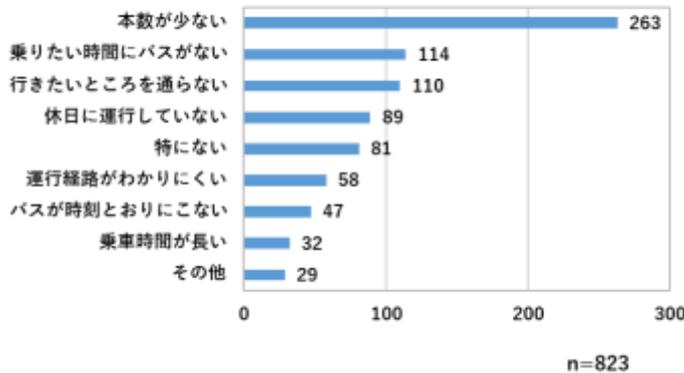


バスの利用頻度 (地区別)

①住民アンケート調査結果の概要

8. バスの運行時刻・経路についての不満点

- 1位「本数が少ない」263人
- 2位「乗りたい時間にバスがない」114人
- 3位「行きたいところを通らない」110人。
- 地区別でも不満の傾向は同じ
- その他の意見として便数や他交通期間との接続に関する意見がある



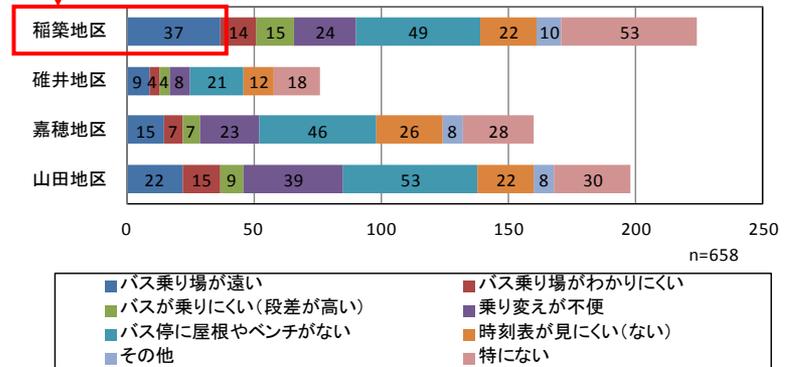
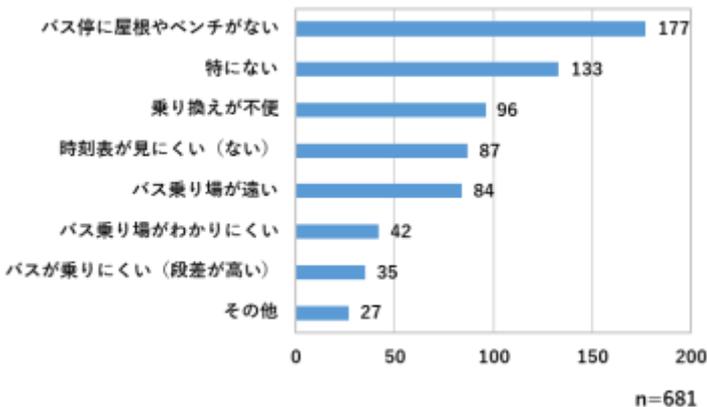
バスの運行時刻・経路についての不満点

バスの運行時刻・経路についての不満点
(地区別)

①住民アンケート調査結果の概要

9. バスの車両やバス乗り場についての不満点

- 1位「バス停に屋根やベンチがない」177人
- 2位「乗り換えが不便」96人
- 3位「時刻表が見にくい(ない)」87人。
- 地区別では、**稲築地区**において「バス停に屋根やベンチがない」に次いで「バス乗り場が遠い」が多い。



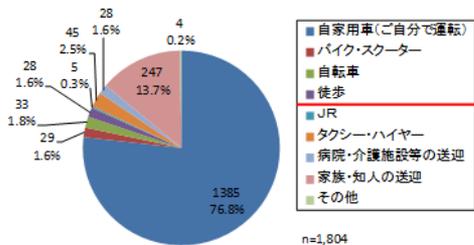
バスの車両やバス乗り場についての不満点

バスの車両やバス乗り場について不満点
(地区別)

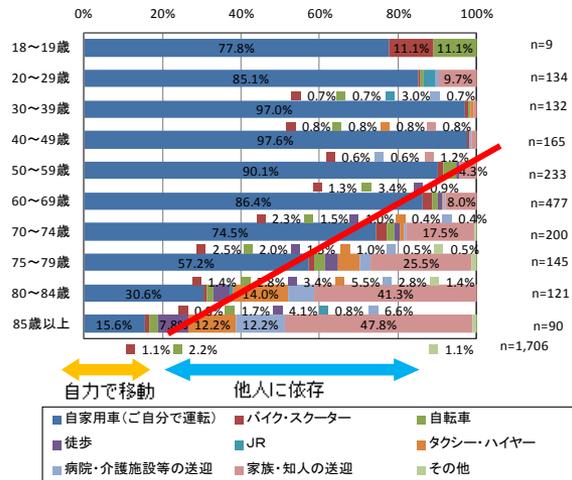
①住民アンケート調査結果の概要

10. バスを利用しない人が普段利用する主な交通手段

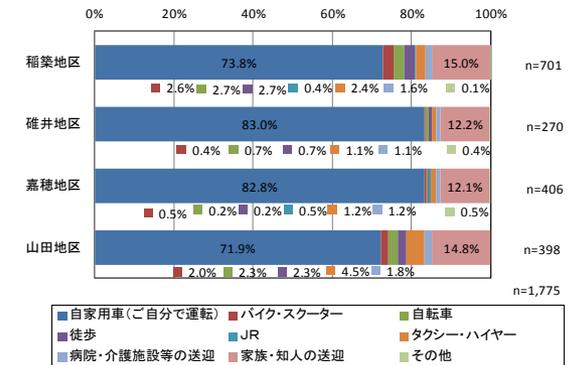
- 1位「自家用車(ご自分で運転)」76.8%(1,385人)
- 2位「家族・知人の送迎」13.7%(247人)
- 年齢別では、高齢になるにつれ「自家用車(自分で運転)」が減少、「家族・知人の送迎」が増加する傾向
- 地区別では、どの地区も同様な傾向。



自力で移動
他人に依存



普段利用する交通手段(年齢別)



普段利用する交通手段(地区別)

普段利用する交通手段

①住民アンケート調査結果の概要

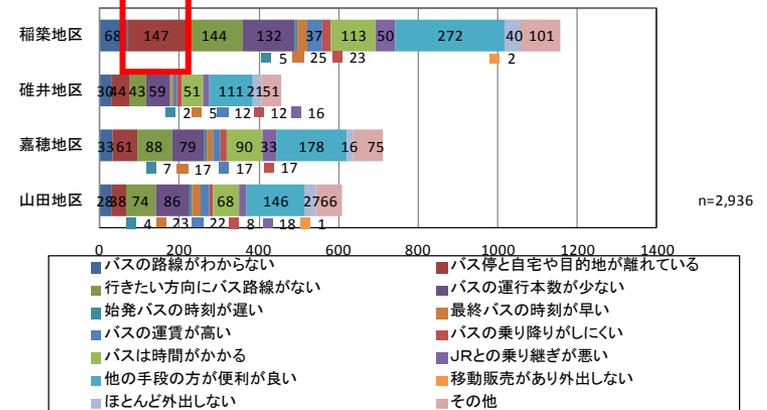
11. バスを利用しない理由

- 1位「他の手段の方が便利が良い」714人
- 2位「バスの運行本数が少ない」364人
- 3位「行きたい方向にバス路線がない」354人
- 地区別では、どの地区も同様な傾向。
- **稲築地区においては、他に「バス停と自宅や目的地が離れている」が比較的多く147人**



n=2,975

バスを利用しない理由



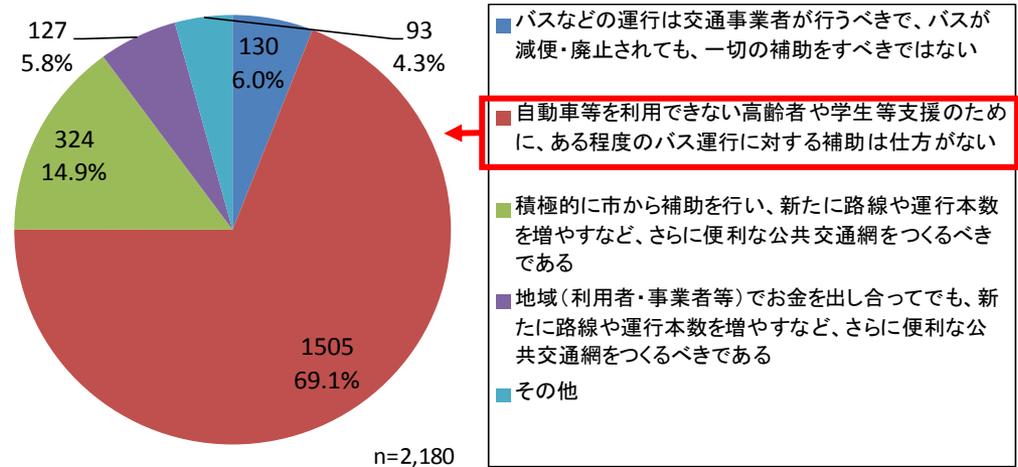
n=2,936

バスを利用しない理由(地区別)

①住民アンケート調査結果の概要

12. バス運行への補助について

- 1位「自動車等を利用できない高齢者や学生等支援のために、ある程度のバス運行に対する補助は仕方がない」69.1%(1505人)
- 2位「積極的に市から補助を行い、新たに路線や運行本数を増やすなど、さらに便利な公共交通網をつくるべきである」が14.9%(324人)
- **市からの補助については、全体の8割以上が賛成**

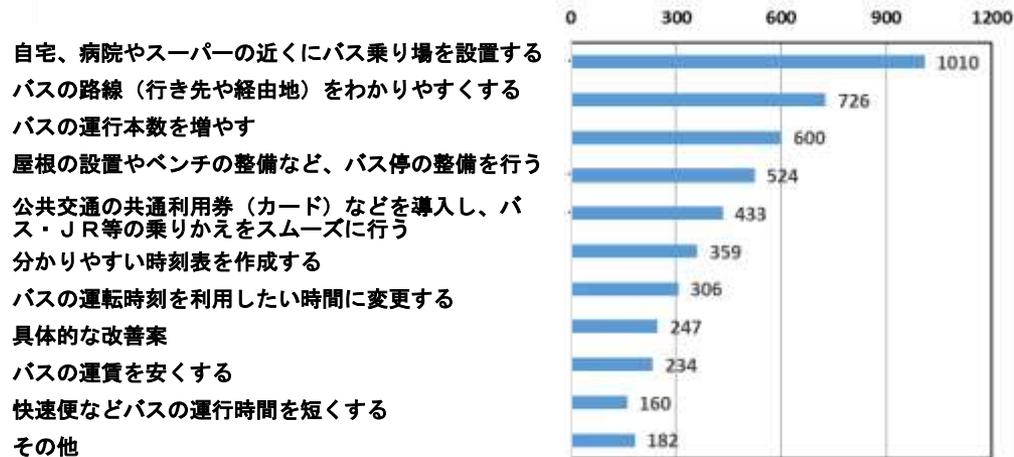


バス運行への補助について

①住民アンケート調査結果の概要

13. 公共交通を見直す際に重要なことについて

- 1位「自宅、病院やスーパーの近くにバス乗り場を設置する」(1010人)
- 2位「バスの路線(行き先や経由地)をわかりやすくする」(726人)
- 3位「バスの運行本数を増やす」



n=4,781

公共交通の見直しについて

②高校生アンケート調査結果の概要

1. 調査実施概要

■調査目的

- 高校生の通学時の交通手段や公共交通利用状況についての把握、公共交通に対する意見や要望等の把握・分析

■調査期間:平成25年9月中旬～9月末日

■調査対象:

- 嘉麻市からの通学が想定される周辺市町の高校

■配布・回収方法:

- 学校の先生から高校生への直接配布・回収

■配布数・回収数

- 全校生徒もしくは、嘉麻市在住の生徒の人数分を配布・回収
- 配布数2,064票、回収数1,658票

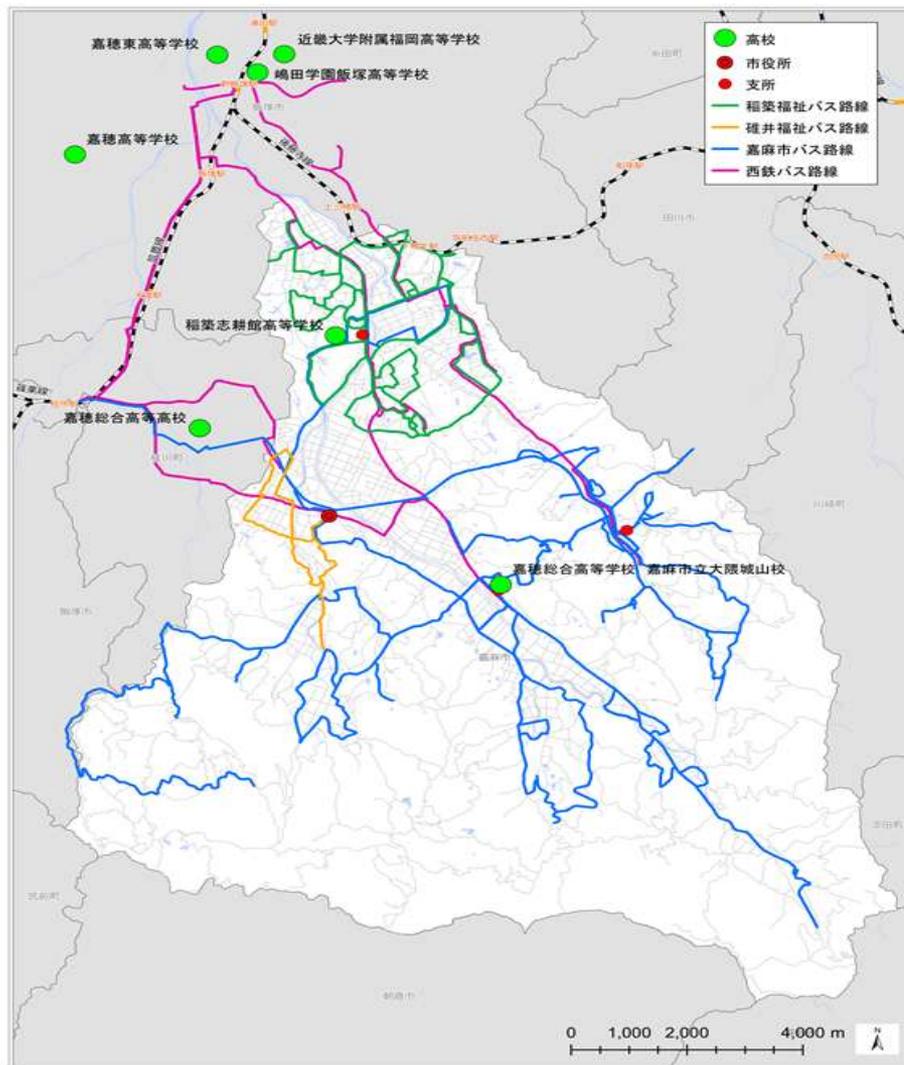
■回収率:80.3%

高校名	配布対象者	配布部数
稲築志耕館高等学校	全校生徒	780部
嘉穂総合高等学校 嘉麻市立大隈城山校	全校生徒	70部
嘉穂総合高等高校	全校生徒	720部
嘉穂高等学校	嘉麻市在住の生徒	186部
嘉穂東高等学校	嘉麻市在住の生徒	160部
近畿大学附属福岡高等学校	嘉麻市在住の生徒	68部
嶋田学園飯塚高等学校	嘉麻市在住の生徒	80部
合計		2,064部

調査対象高校と配布部数

②高校生アンケート調査結果の概要

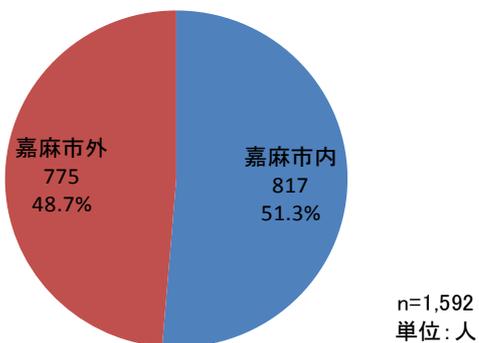
2. 調査対象高校の位置図



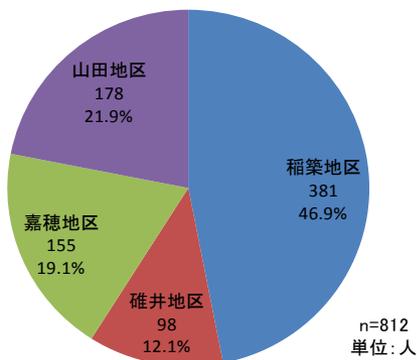
②高校生アンケート調査結果の概要

3. 通学者の居住地について

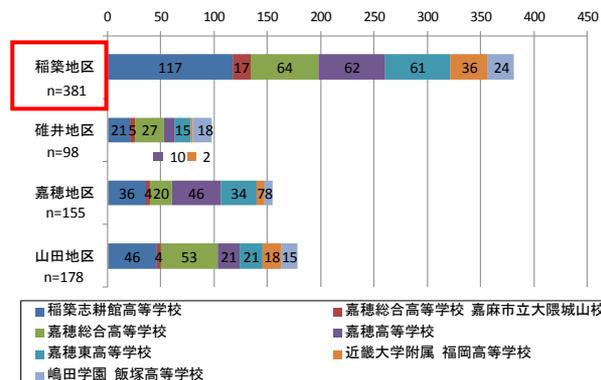
- 嘉麻市内からの通学者51.3%(817人)、嘉麻市外からの通学者48.7%(775人)
- 嘉麻市からの通学者の居住地
 - 1位「稲築地区」46.9%(381人)
 - 2位「山田地区」21.9%(178人)
 - 3位「嘉穂地区」19.1%(155人)
 - 4位「碓井地区」12.1%(98人)
- 「稲築地区」からは「稲築志耕館高等学校」へ通う学生が最も多く117人
- 「碓井地区」からは「嘉穂総合高等学校」で27人
- 「嘉穂地区」からは「嘉穂高等学校」で46人
- 「山田地区」からは「嘉穂総合高等学校」で53人



嘉麻市内外の内訳



各地区の内訳

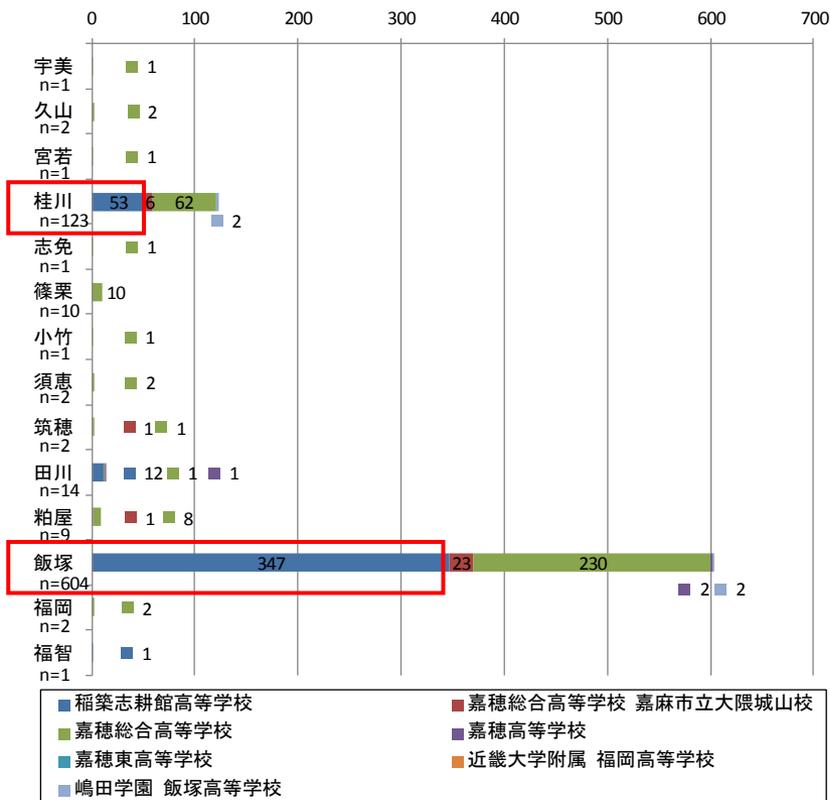


地区別通学状況

②高校生アンケート調査結果の概要

4. 嘉麻市外からの通学者の居住地について

- 1位「飯塚」から「稲築志耕館高等学校」347人
- 2位「桂川」から「稲築志耕館高等学校」53人



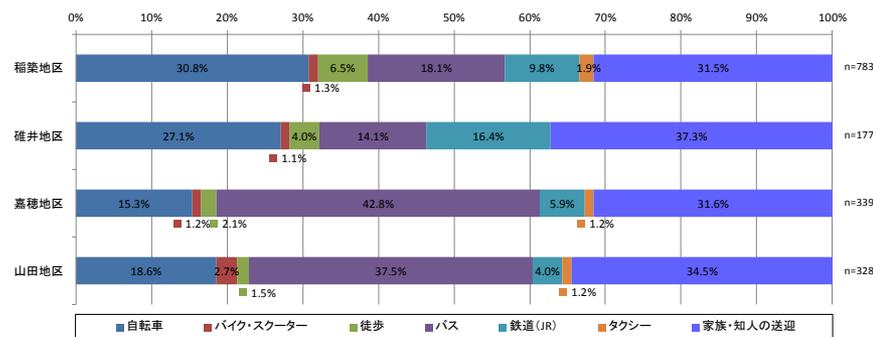
②高校生アンケート調査結果の概要

5. 利用交通手段

- 1位「家族・知人の送迎」2～4割
- 2位「自転車」1～3割
- 「嘉穂総合高等学校 嘉麻市立大隈城山校」(45.8%)と「嘉穂東高校」(29.4%)は、「バス」が最も多い
- 嘉麻市内の学生は、家族・知人の送迎に依存している学生が多い
- 稲築地区と碓井地区は「家族・知人の送迎」が最も多く、3～4割
- 嘉穂地区と山田地区には「バス」が約4割を占め、次いで「家族・知人の送迎」が約3割



高校別の利用交通手段

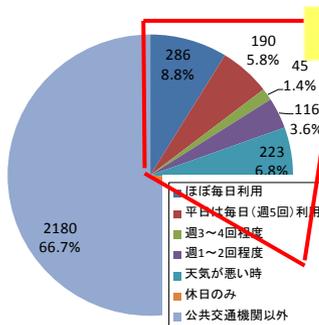


地区別の利用交通手段

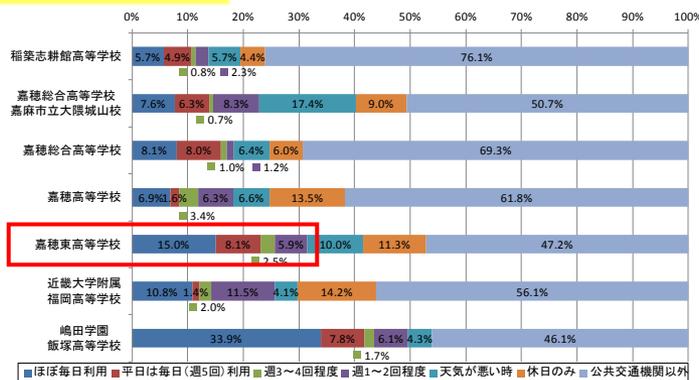
②高校生アンケート調査結果の概要

6. 公共交通機関(西鉄バス、市バス、JR)の利用頻度

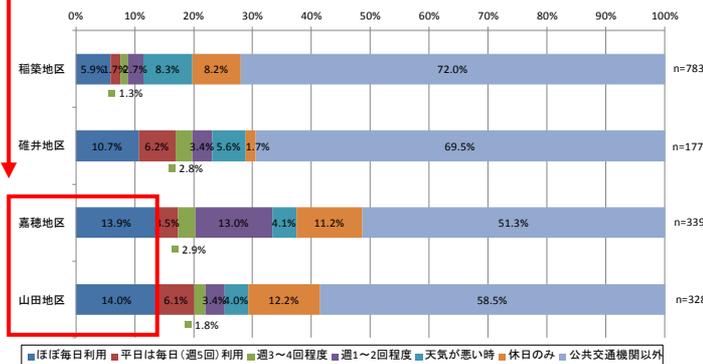
- 1位「公共交通機関以外」66.7%(2,180人)
- 2位「ほぼ毎日利用」8.8%(286人)
- 3位「休日のみ」6.9%(227人)
- **公共交通機関利用者の割合は33.3%**であり、公共交通機関以外利用者の約半分程度
- 高校別では、「**嶋田学園 飯塚高等学校**」の「**ほぼ毎日利用**」の割合が高く**33.9%**
- その他の高校においては、「**ほぼ毎日利用**」の割合は1~2割程度
- 地区別では、「**嘉穂地区**」、「**山田地区**」の「**ほぼ毎日利用**」の割合が比較的高く約**14%**



公共交通機関利用者



公共交通機関の利用頻度 (高校別)



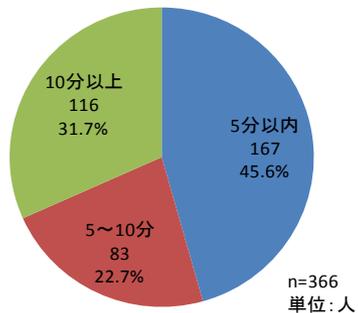
公共交通機関の利用頻度 (地区別)

公共交通機関の利用頻度

②高校生アンケート調査結果の概要

7. 最寄りのバス停までの移動時間

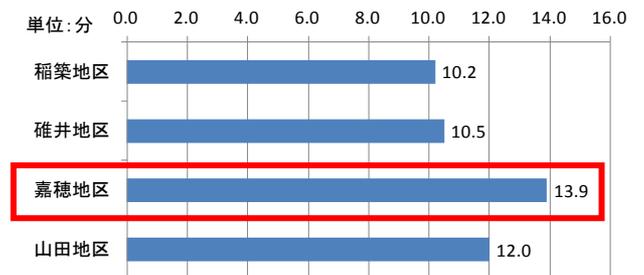
- 1位「5分以内」45.6% (167人)
- 2位「10分以上」31.7% (116人)
- 3位「5～10分」が22.7% (83人)
- 地区別では、稲築地区は「5分以上」が約半分
- 碓井地区、嘉穂地区は「5分以内」が半分以上
- **山田地区においては、「10分以上」が40.7%**
- 平均時間では、稲築地区、碓井地区が約10分、山田地区が約12分、嘉穂地区が約14分であり、**嘉穂地区が最も時間を要する**



最寄りのバス停までの移動時間



最寄りのバス停までの移動時間(地区別)



平均移動時間

③バス利用者アンケート調査結果の概要

1. 調査実施概要

■調査目的

- 嘉麻市内における市バス・福祉バスについて、バスのダイヤやルート、バス運行全般の現状について確認するとともに、利用者のニーズ、要望等を把握

■調査期間：平成25年10月中旬～10月末日

■調査対象：

- 嘉麻市の市バス、福祉バスの利用者（高校生も含む）

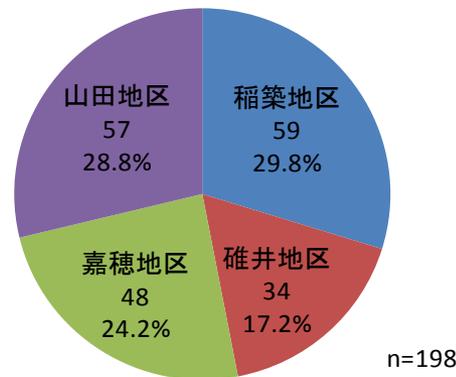
■配布・回収方法：

- 嘉麻市バス、福祉バス車内にてアンケート用紙箱を設置し配布、回収箱に投函回収
- 稲築福祉バスにおいては、アンケートをバス内の設置以外に、拠点である「なつきの湯」「福祉センター」にもアンケート用紙を設置し、バスを待っている間の利用者も回答

■回収数：225票（有効票のみ）

回答者の居住地は

- 「稲築地区」29.8%（59人）
- 「山田地区」28.8%（57人）
- 「嘉穂地区」24.2%（48人）
- 「碓井地区」17.2%（34人）



バス利用者アンケート回答者居住地

③バス利用者アンケート調査結果の概要

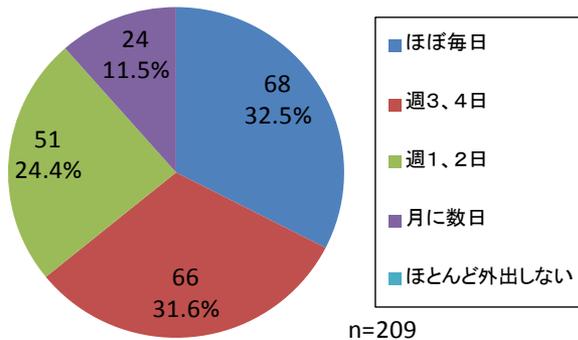
2. 外出頻度

- 1位「ほぼ毎日」32.5% (68人)
- 2位「週3、4日」31.6% (66人)
- 3位「週1、2日」24.4% (51人)

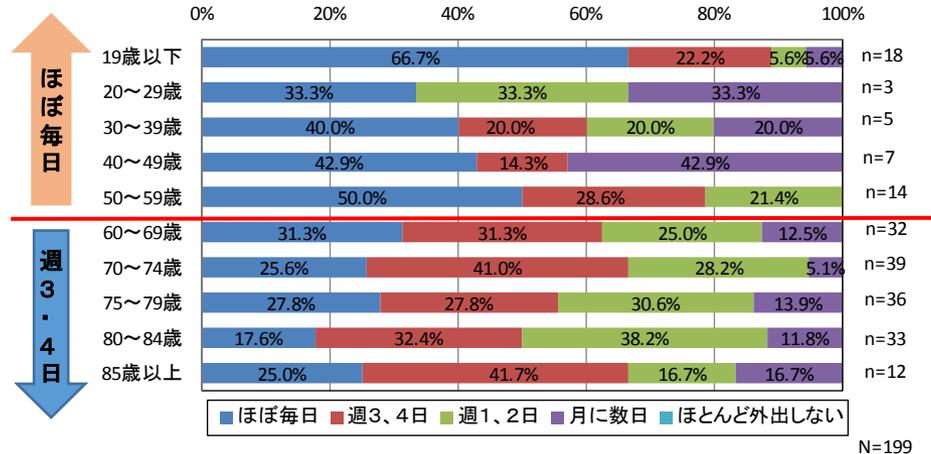


バス利用者アンケート調査結果なので、バス利用者は高頻度で外出と推定

- 「50～59歳」より高い年齢は「週3、4日」の割合が高い
- 「50～59歳」より低い年齢は「ほぼ毎日」の割合が高い



外出頻度

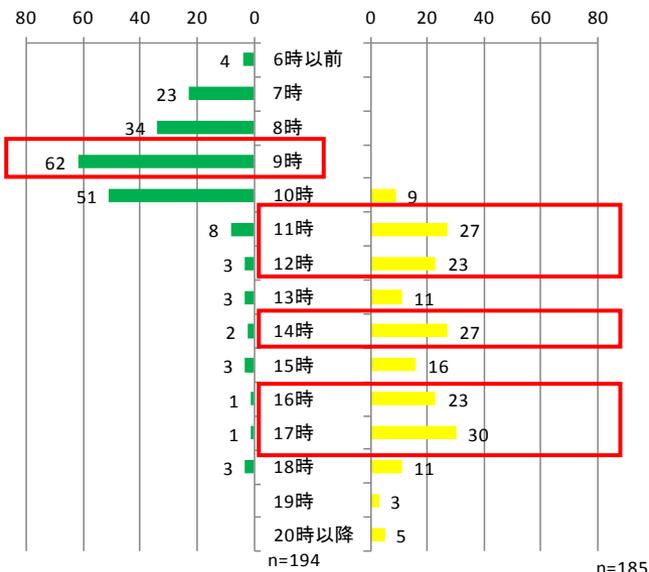


外出頻度 (年齢別)

③バス利用者アンケート調査結果の概要

3. 外出時間・帰宅時間

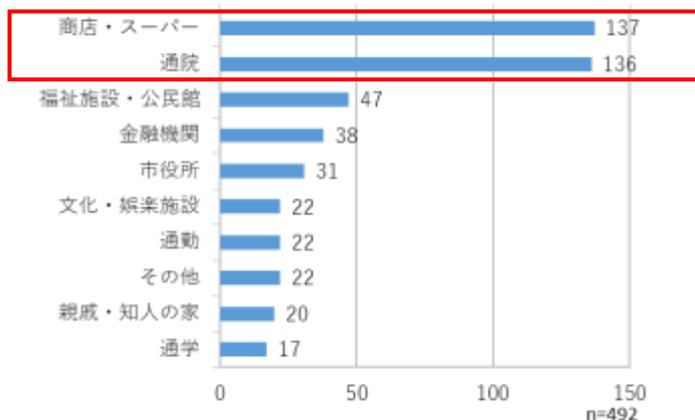
- 午前中の外出が多く「9時台(62人)」にピーク
- 帰宅時間は「11～12時、14時、16～17時」が比較的多く、20人以上



外出時間・帰宅時間

4. 外出の目的地(3つ回答)

- 1位「商店・スーパー」137人
- 2位「通院」136人
- 3位「福祉施設・公民館」が47人
- ほとんどが買い物と通院が目的でバスを利用

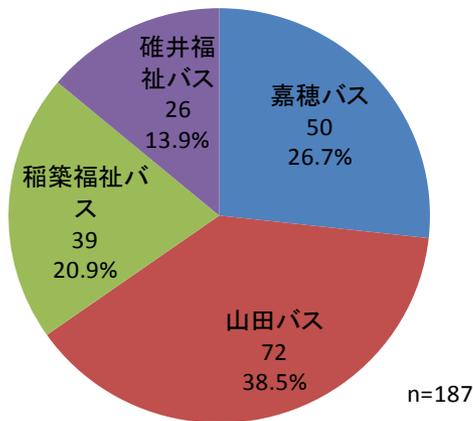


外出の目的地

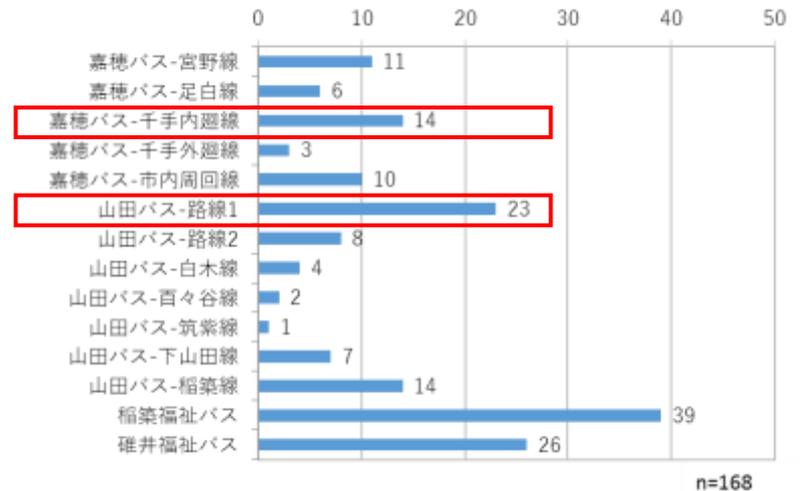
③バス利用者アンケート調査結果の概要

5. 利用する公共交通機関

- 1位「山田バス」38.5% (72人)
- 2位「嘉穂バス」が26.7% (50人)
- 3位「稲築福祉バス」が20.9% (39人)
- 路線別では、嘉穂バスが「千手内廻線」が最も多く14人、山田バスが「路線1」が最も多く23人



利用する公共交通機関

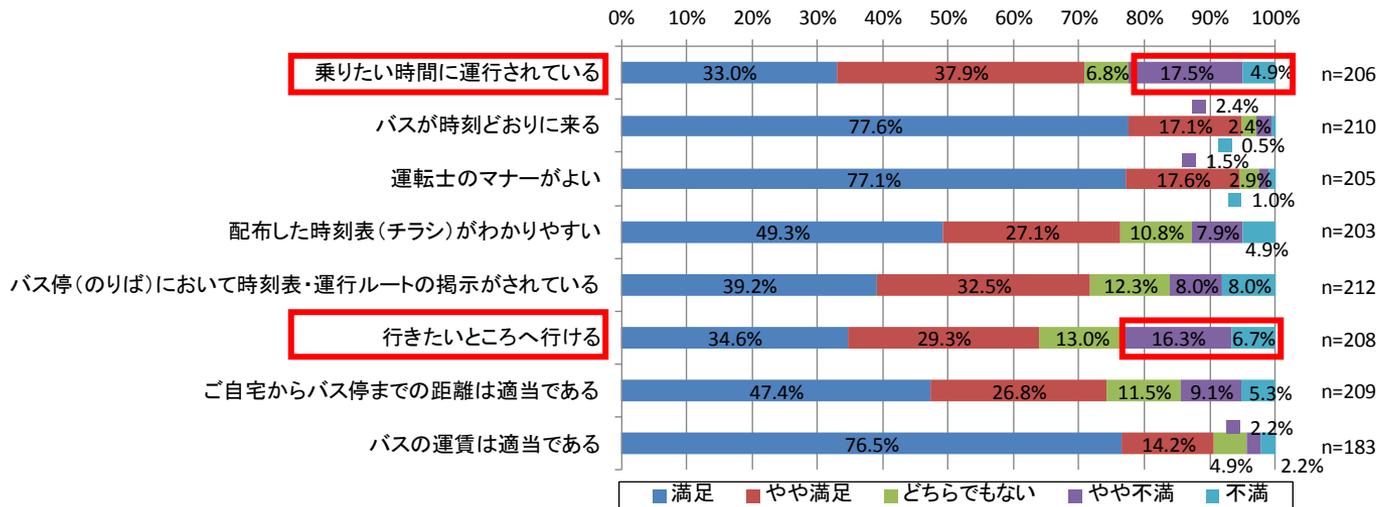


利用する公共交通機関(路線別)

③バス利用者アンケート調査結果の概要

6. バスの運行に関する満足度(8項目の5段階評価)

- 「運転士のマナーがよい」は、「満足」と「やや満足」の回答が約9割
- 「バスが時刻どおりに来る」は、「満足」と「やや満足」の回答が約9割
- 「行きたいところへ行ける」は、「やや不満」と「不満」の回答が約2割
- 「乗りたい時間に運行されている」は、「やや不満」と「不満」の回答が約2割



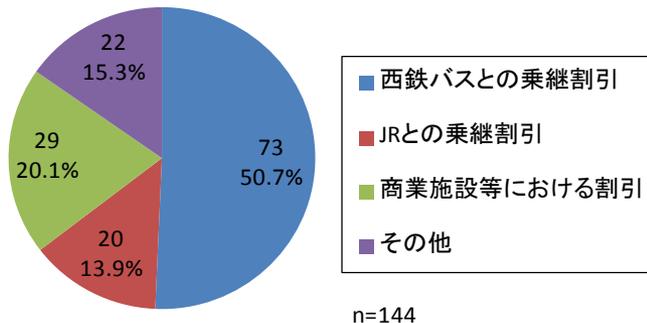
バス運行に関する満足度

③バス利用者アンケート調査結果の概要

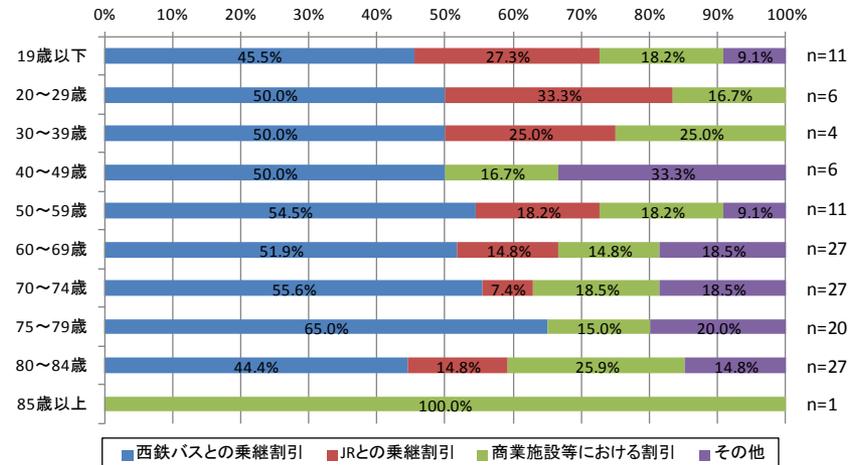
7. バス運用におけるサービス(割引制度)のニーズ

- 1位「西鉄バスとの乗継割引」50.7%(73人)
- 2位「商業施設等における割引」20.1%(29人)
- 年齢別では、85歳以上を除いて、どの年齢においても「西鉄バスとの乗継割引」のニーズが高い
- その他のサービスとしては、割引制度の意見より、バス運行における向上を望む意見が多い

(例:時間を増やして欲しい、病院の近くにバス停を設置してほしい、時刻表の見直し等)



サービスニーズ



サービスニーズ(年齢別)

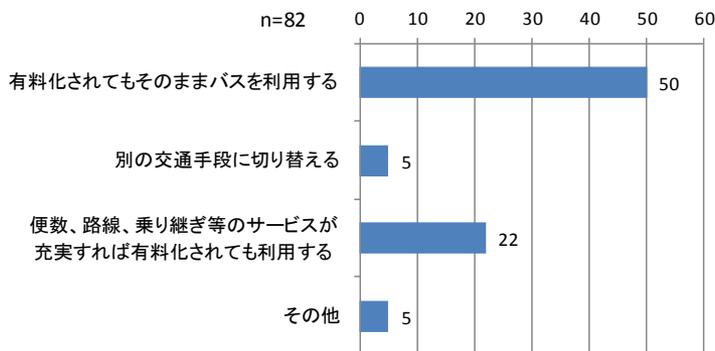
③バス利用者アンケート調査結果の概要

8. 福祉バス(稲築福祉バス、碓井福祉バス)の有料化後の対応

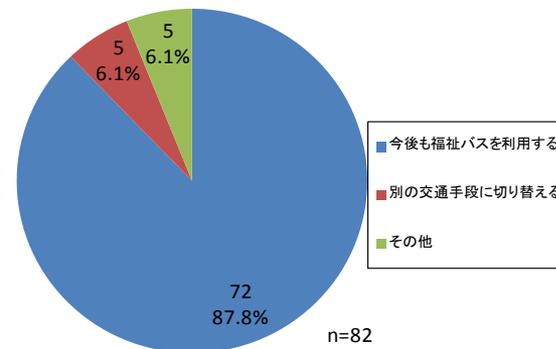
- 1位「有料化されてもそのままバスを利用する」50人
- 2位「便数、路線、乗り継ぎ等のサービスが充実すれば有料化されても利用する」22人
- 今後も福祉バスを利用する割合は、あわせて87.8%(72人)
- 利用しない割合は、6.1%(5人)



有料化されても継続して利用する傾向が強い



福祉バスの有料化後の対応
(回答者数)



福祉バスの有料化後の対応(利用意向)

④各種団体アンケート調査結果の概要

1. 調査実施概要

■調査目的

- 民生委員・児童委員会、行政区長会、老人クラブの方は、担当している地区内において困っている事や要望等を把握していることから、各地区の代表者として、意見を聞き取り、課題を抽出

■調査期間：平成25年10月上旬～11月下旬

■調査対象：

- 民生委員・児童委員会、行政区長会、老人クラブ

■配布・回収方法：

- ヒアリング形式による直接配布・回収

■回収数

- 145票（有効票のみ）
- 碓井地区民生委員・児童委員会については、会議式でヒアリングを実施

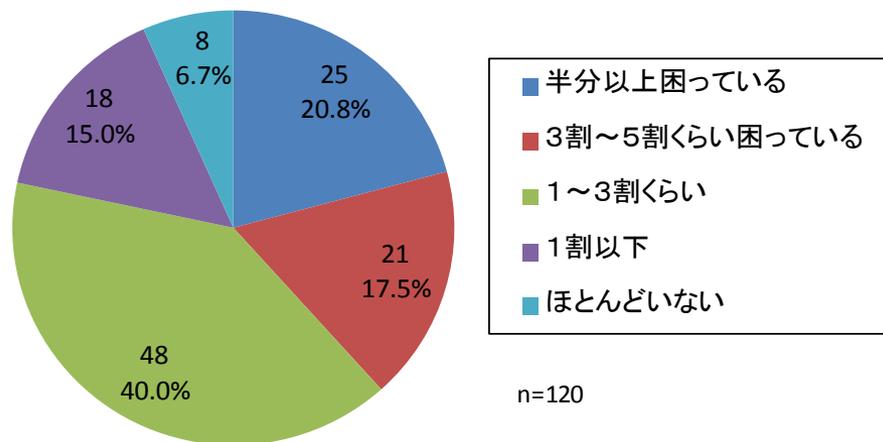
ヒアリング対象者	対象地区
山田地区民生委員・児童委員会	山田地区
稲築地区民生委員・児童委員会	稲築地区
碓井地区民生委員・児童委員会	碓井地区
嘉穂地区民生委員・児童委員会	嘉穂地区
山田地区行政区長会	山田地区
稲築地区行政区長会	稲築地区
碓井地区行政区長会	碓井地区
嘉穂地区行政区長会	嘉穂地区
老人クラブ役員会	—

ヒアリング対象者と対象地区

④各種団体アンケート調査結果の概要

2. 市内移動に関して困っている世帯の割合－1

- 1位「1割～3割くらい」40.0%(48人)
- 2位「半分以上困っている」が20.8%(25人)



困っている世帯の割合

④各種団体アンケート調査結果の概要

2. 市内移動に関して困っている世帯の割合－2

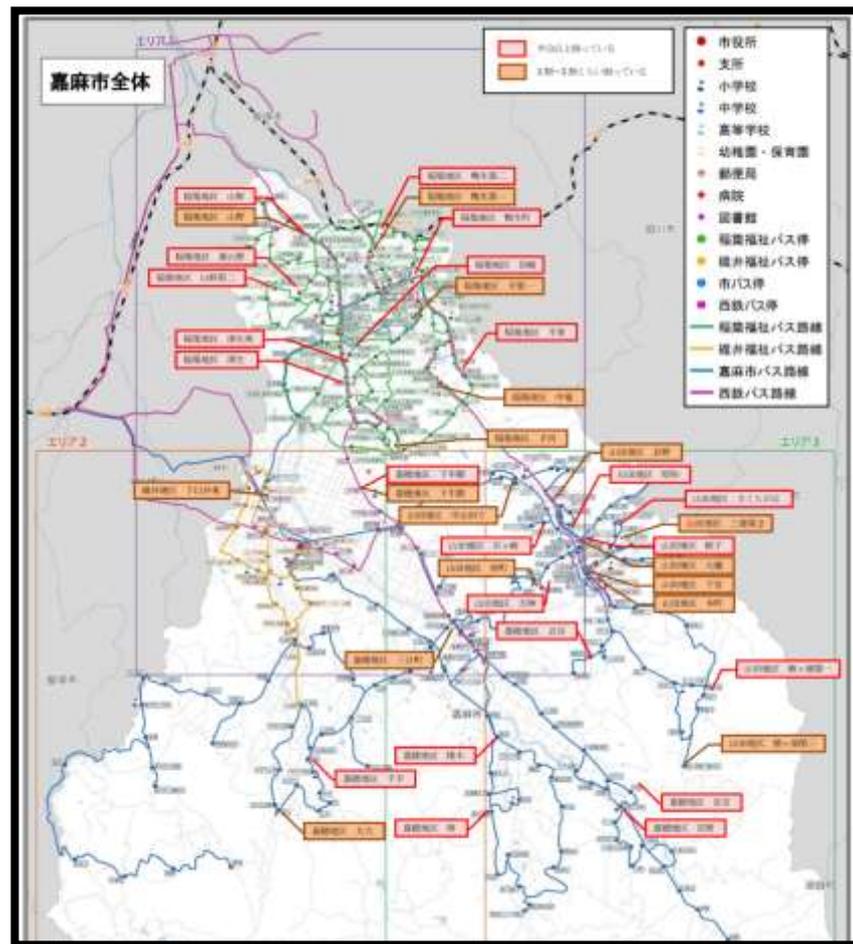
■「半分以上困っている」及び「3～5割くらい困っている」という回答合わせて38.3%

■半分以上困っている

- 山田地区-6人(さくらが丘、熊ヶ畑第1、昭和、石ヶ崎、天神、蛭子)
- 稲築地区-11人(平東、新山野、山野第二、鴨生町、漆生町、漆生東、鴨生第二、山野、岩崎、無回答)
- 碓井地区-1人(無回答)
- 嘉穂地区-7人(下牛隈、嘉穂百谷、宮吉、宮野、千手、屏、椎木)

■3～5割くらい困っている

- 山田地区-9人(下宮、熊ヶ畑第3、原町、三菱第2、大橋、中山田下、長野、本町)
- 稲築地区-5人(才田、平第一、鴨生第一、中籠、山野)
- 碓井地区-4人(下臼井東、無回答)
- 嘉穂地区-3人(下牛隈、三日町、大力)

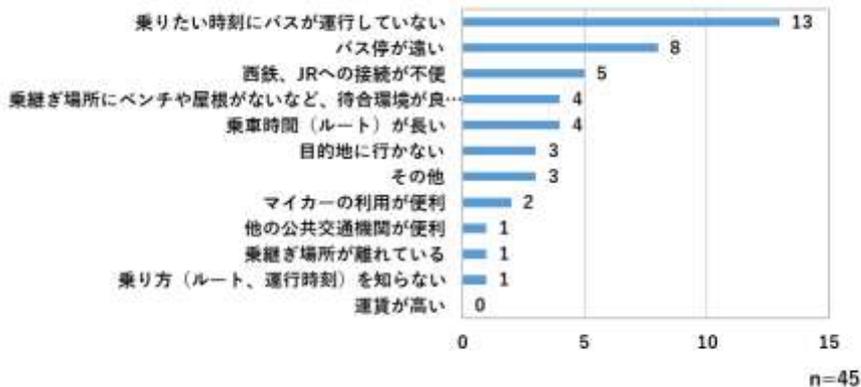


④各種団体アンケート調査結果の概要

3. バスを利用しにくい理由－1

■山田バス

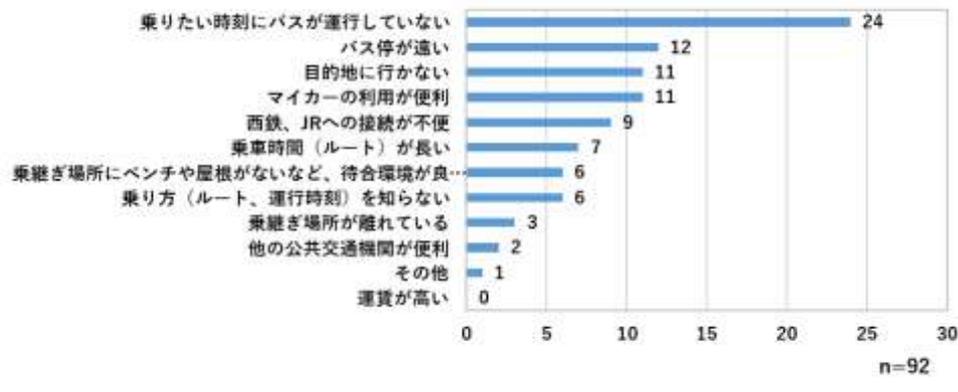
- 1位「乗りたい時刻にバスが運行していない」13人
- 2位「バス停が遠い」が8人
- 3位「西鉄、JRへの接続が不便」



山田バスを利用しにくい理由

■嘉穂バス

- 1位「乗りたい時刻にバスが運行していない」24人
- 2位「バス停が遠い」12人
- 3位「目的地に行かない」・「マイカーの利用が便利」11人



嘉穂バスを利用しにくい理由

④各種団体アンケート調査結果の概要

3. バスを利用しにくい理由-2

■福祉バス

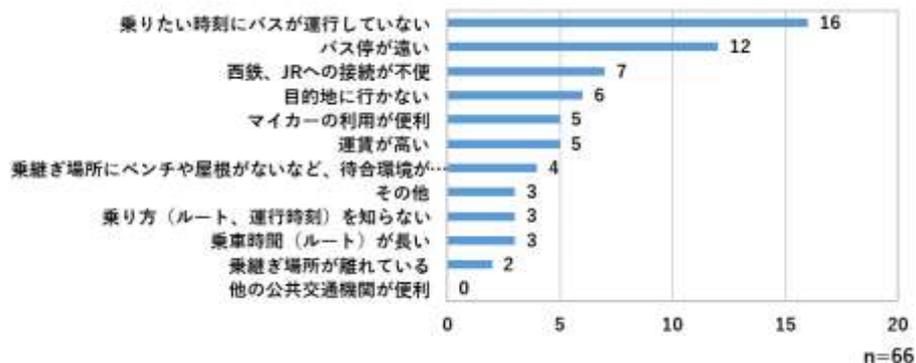
- 1位「乗りたい時刻にバスが運行していない」10人
- 2位「目的地へ行かない」・「乗継ぎ場所にベンチや屋根がないなど、待合環境が良くない」が6人
- 3位「バス停が遠い」・「乗り方(ルート、運行時刻)を知らない」5人



福祉バスを利用しにくい理由

■西鉄バス

- 1位「乗りたい時刻にバスが運行していない」16人
- 「バス停が遠い」が12人
- 「西鉄、JRへの接続が不便」7人

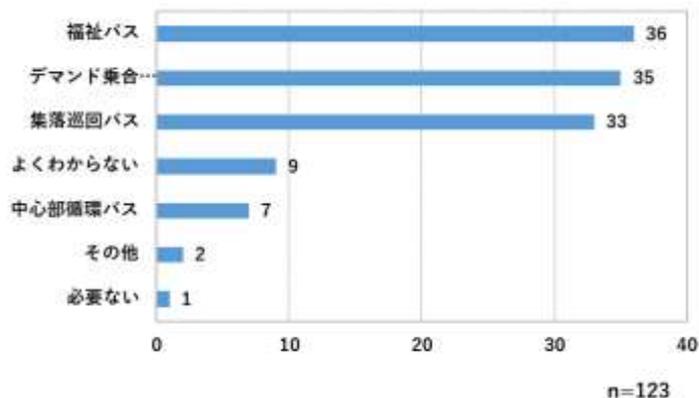


西鉄バスを利用しにくい理由

④各種団体アンケート調査結果の概要

4. 今後利用が見込まれるバスの運行形態

- 1位「高齢者の通院等を支援する『福祉バス』」(36人)
- 2位「予約した時にのみ、自宅(近く)から目的地(または乗継拠点)まで運行される『デマンド乗合バス』」(35人)
- 3位「集落を周回して、市中心部や路線バスに持続する『集落巡回バス』」(33人)



今後、利用が見込まれるバスの運行形態

※補足説明

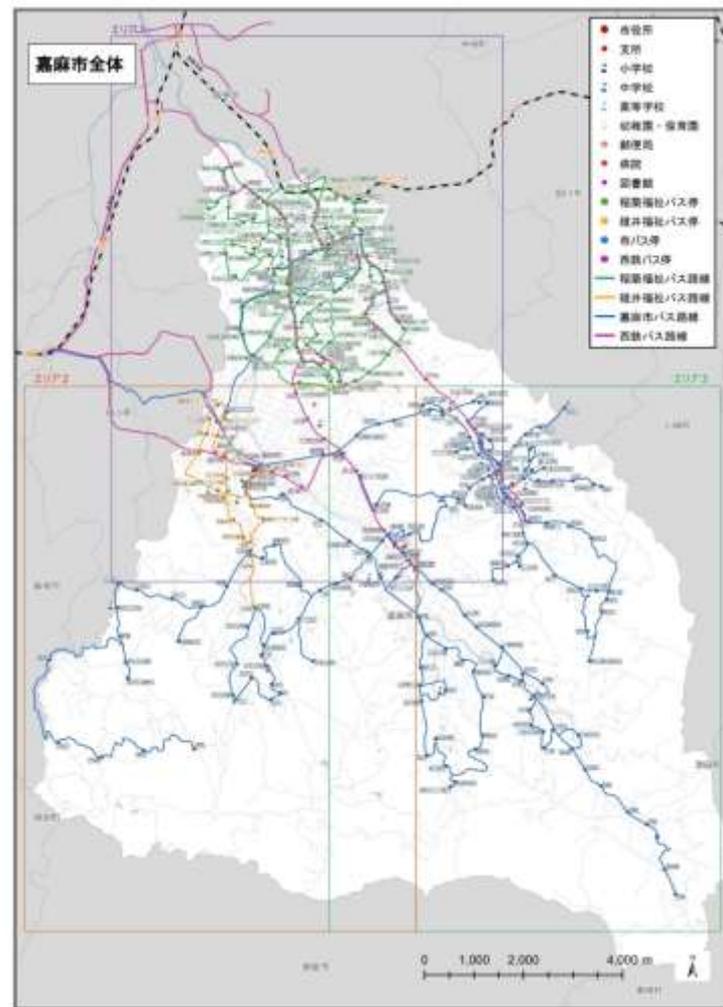
- 集落巡回バス: 集落を周回して、市中心部や路線バスに接続する「集落巡回バス」
- 福祉バス: 高齢者の通院等を支援する「福祉バス」
- 中心部循環バス: 市の中心部の主要施設等を循環する「中心部循環バス」
- デマンド乗合バス: 予約した時にのみ、自宅(近く)から目的地まで運行される「デマンド乗合バス」

④各種団体アンケート調査結果の概要

4. 外出の際の出発地・目的地－1

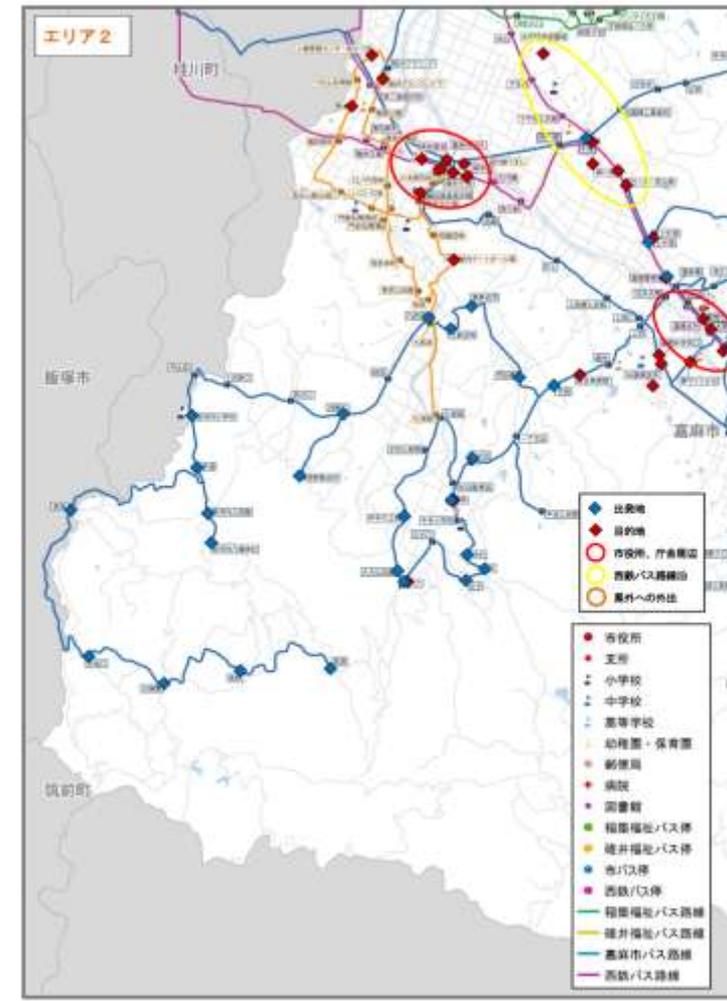
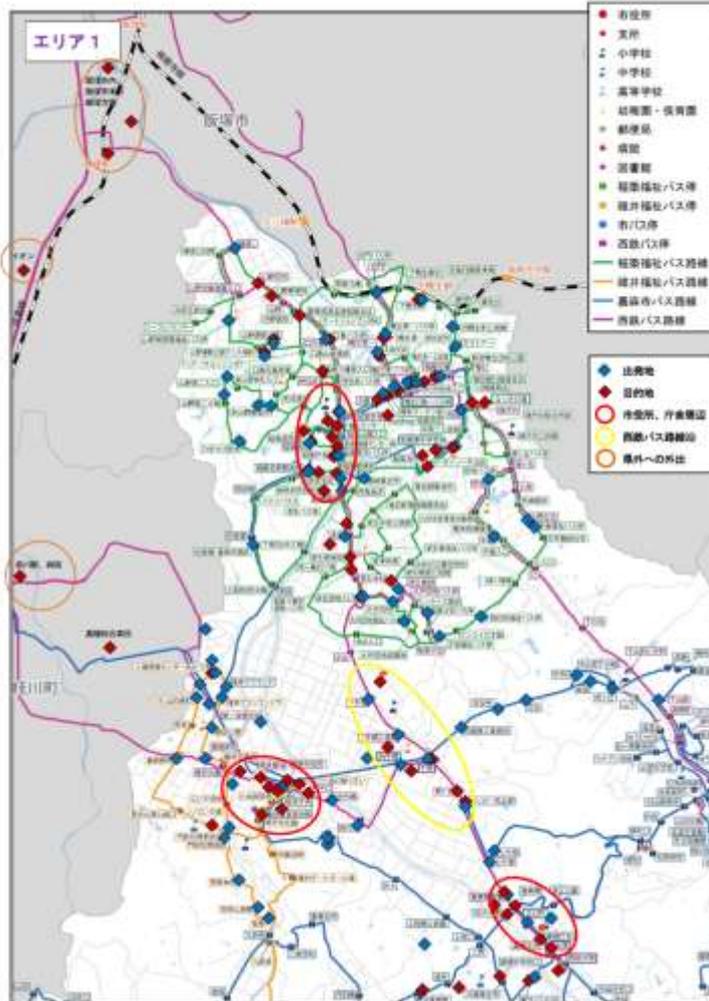
- 共通して、多い目的地は、市役所、庁舎周辺
- 目的地として、西鉄バス路線沿いの施設が多い
- 県外でみると、飯塚方面や桂川方面へ行く人もいる

外出する際の出発地に青いマーク、目的地に赤いマークを記入してもらい、整理したプロット図を示す



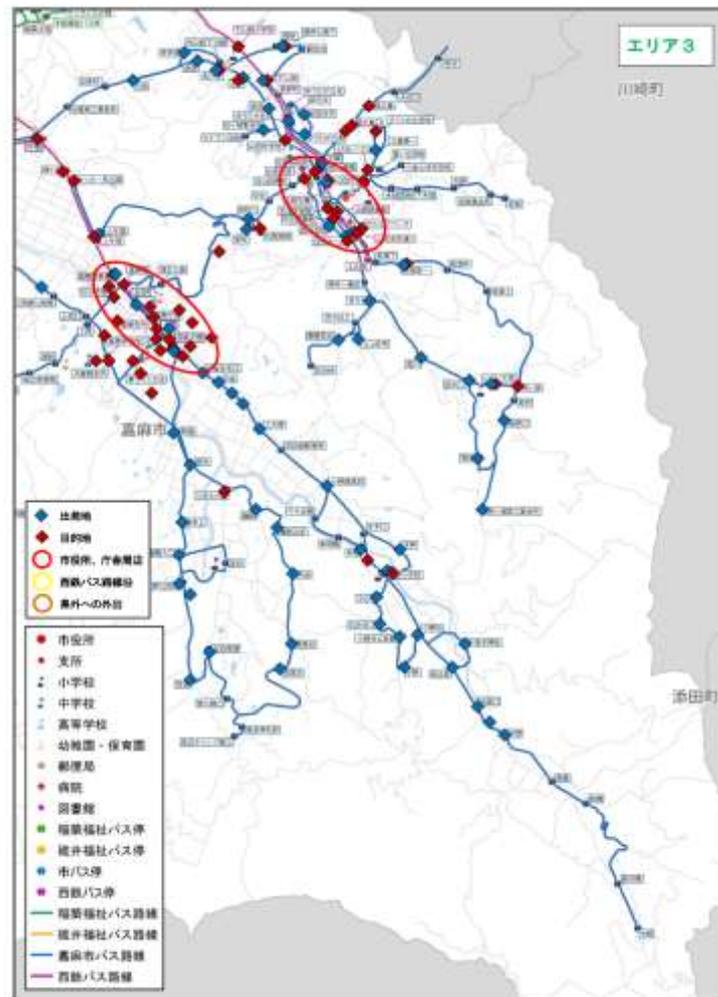
④各種団体アンケート調査結果の概要

4. 外出の際の出発地・目的地-2



④各種団体アンケート調査結果の概要

4. 外出の際の出発地・目的地－3



⑤まち・ひと・しごと創生に関する市民意識調査

1. 調査実施概要

■調査目的

- 人口の将来を展望するにあたって重要となる市民意識の把握

■調査期間:平成27年7月31日(金)～平成27年8月21日(金)

■調査対象:

- 18歳以上の市民の中から、3,000名を無作為に抽出

■配布・回収方法:

- 郵送配布・郵送回収

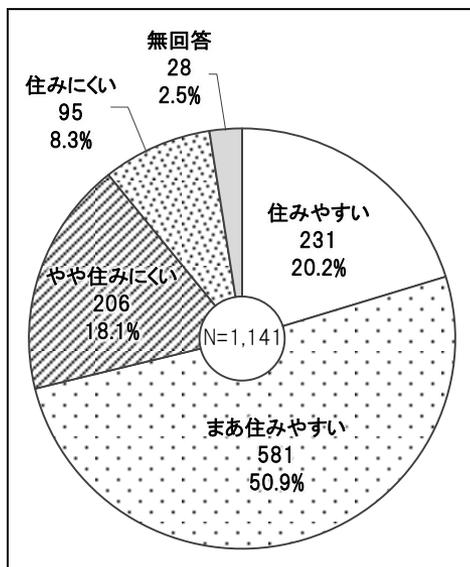
■回収数

- 配布数3,000件、回収数1,141件 (回収率38.0%)

⑤まち・ひと・しごと創生に関する市民意識調査

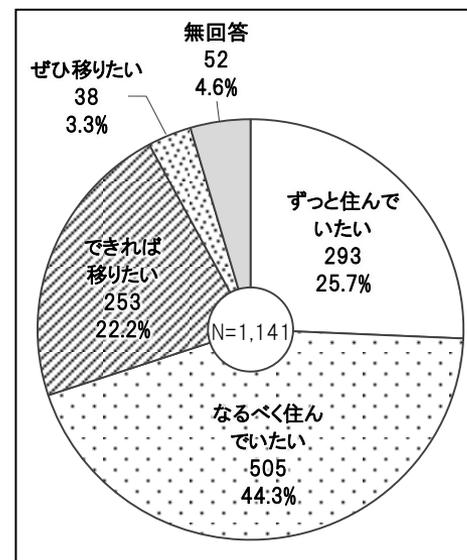
①嘉麻市の住みやすさ

- 「まあ住みやすい」と回答した人が50.9%で最も多くなっています。次いで、「住みやすい」と回答した人が20.2%となっています。「住みやすい」と「まあ住みやすい」の合計は71.1%となっています。



②嘉麻市に住み続けたいか、それとも市外に転出したいかの意向

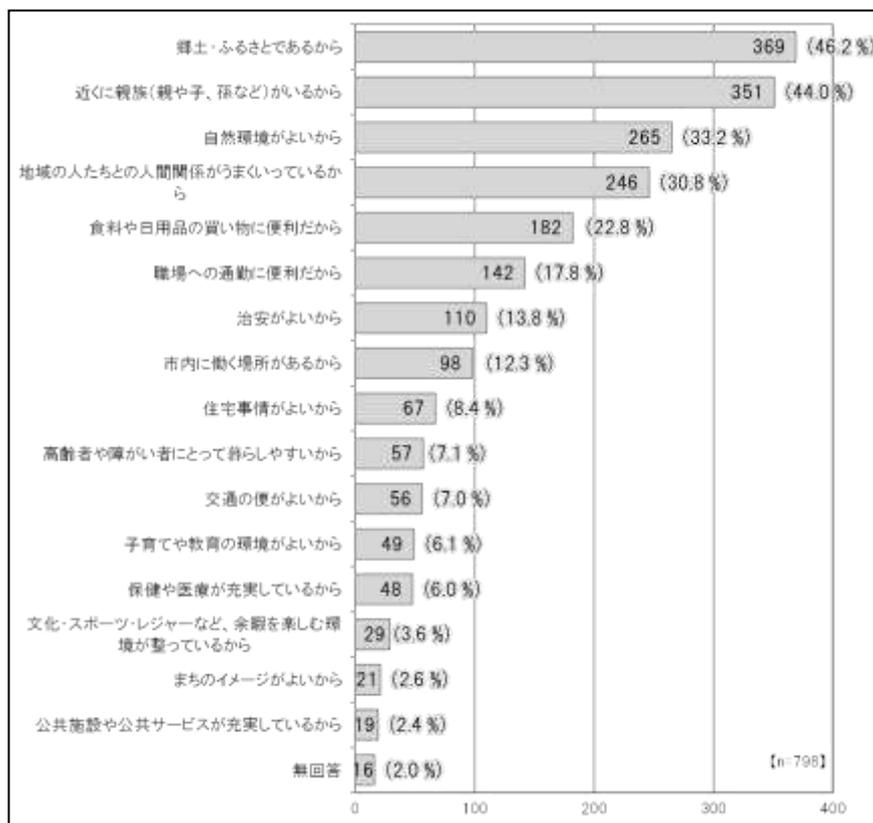
- 「なるべく住んでいたい」と回答した人が44.3%で最も多くなっています。次いで、「ずっと住んでいたい」と回答した人が25.7%となっています。「ずっと住んでいたい」と「なるべく住んでいたい」の合計は70.0%となっています。「できれば移りたい」と「ぜひ移りたい」の合計は25.5%となっています。



⑤まち・ひと・しごと創生に関する市民意識調査

③ずっと嘉麻市に住んでいたい理由

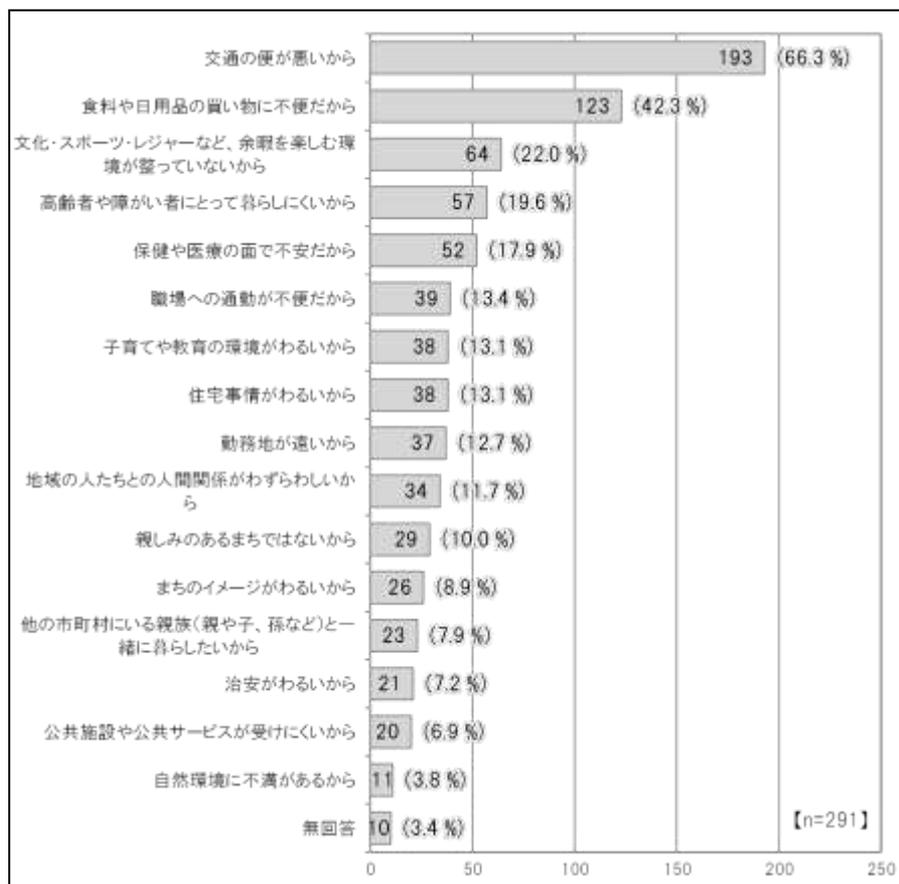
- 嘉麻市に「住んでいたい」理由として、「郷土・ふるさとであるから」と回答した人が46.2%で最も多くなっています。次いで、「近くに親族(親や子、孫など)がいるから」と回答した人が44.0%、「自然環境がよいから」と回答した人が33.2%、「地域の人たちとの人間関係がうまくいっているから」と回答した人が30.8%となっています。



⑤まち・ひと・しごと創生に関する市民意識調査

④市外に移りたい理由

- 嘉麻市外に「移りたい」理由として、「交通の便が悪いから」と回答した人が66.3%で最も多くなっています。次いで、「食料や日用品の買い物に不便だから」と回答した人が42.3%となっています。



⑥市バス乗込み調査

1. 調査実施概要

■調査目的

- 市バスの運行コース、バス停、車両及び車内、乗務員のマナー等を実際に車両に乗込み確認するとともに、早発や遅れなどのダイヤ設定と運行状況の整合性について現状把握を実施。
- 市バスを運行する乗務員及び実際に乗車している利用者に対するヒアリングを行い、現状における問題点や課題、意見等の把握、分析

■調査期間：平成28年4月26日（火）～平成28年5月11日（水）

■調査対象：

- 嘉麻市が運行する市バスの全路線（調査期間のうち3日間 13路線）

■調査方法

- 調査員が直接車両に乗込み、運行状況に関する現場確認及び乗務員、利用者に対するヒアリング調査

■調査員

- 庁舎・交通体系対策室職員

⑥市バス乗込み調査

1. 調査結果の概要(運行路線・バス停等)

- 集落への運行において道路幅員が狭く、離合が困難な場所があり、安全性の観点から課題がある。
- バス停の設置場所に危険なところやわかりにくい箇所があり、設置場所等の再検討が必要。
- 主要なバス停においては、待合環境として充実しているところもある。
- 病院等で玄関前までバスが乗り入れているところがあり、利便性としては効果が高い。
- 一つの路線で同じ場所を周回するような路線があり、非効率となっている。



バスを待つスペースが確保されていないバス停



離合が困難な路線



西鉄バスと共同利用しているバス停



待合環境が整備されたバス停

⑥市バス乗込み調査

2. 調査実施概要(運行及び利用状況)

- 朝、夕は学生や通勤者の利用が多いが、日中の時間帯は利用者が少ない。
- 利用者の数と運行する車両の大きさが適当でない路線がある。
- 運賃箱を設置し、運賃収入に関する管理及び安全性が確保されている。
- 他の交通機関への乗継に際し、接合時間に余裕がないため乗継できないことがある。
- 運手技術、車内アナウンス、服装、車内サービスなど適正に実施されている。



運賃箱の設置状況



閑散とした車内(日中)



市バスの運行車両(嘉穂バス)



混雑した車内(朝・夕)